

ロシア現代アーティスト レオニート・チシコフ

月の歩み 美術と絵本を語る



ロシア現代美術を代表するアーティストで、詩人、絵本作家（『かぜをひいたおつきさま』徳間書店）でもあるレオニート・チシコフ氏は、4月に千葉に滞在し、市原市の里山や自然を舞台に行われる芸術祭「いちほらアート×ミックス2017」（4月8日～5月14日）に参加します。

この公開レクチャーでは、市原で発表した魅力的な月の作品や、これまでの様々な作品や活動について、千葉大生と市民を対象にお話しします。

日本語通訳付で、どなたでも自由にご聴講いただけます。「魔法使いのような語り手」といわれるチシコフ氏のレクチャーを通じて、ロシアの現代美術や絵本の世界を味わっていただければと思います。ぜひ奮ってご参加ください。ご来場をお待ちしております。

日時：2017年4月12日（水）12:50-14:20（開場 12:30）

予約不要・入場無料 ロシア語（日本語への通訳付）

講演者：レオニート・チシコフ（現代美術作家）

司会・通訳：鴻野わか菜（千葉大学文学部・准教授）

会場：千葉大学西千葉キャンパス 文学部 102 講義室

千葉市稲毛区弥生町1-3-3（総武線各停「西千葉駅」より徒歩8分、京成「みどり台駅」より徒歩5分）

問い合わせ先：鴻野わか菜 E-mail: kono@chiba-u.jp

主催：千葉大学文学部

*本レクチャーは科学研究費「現代ロシア文化における文学と視覚芸術の相互的影響の解明」の助成を得ています。



〈レオニート・チシコフ氏略歴〉 Leonid Tishkov / Леонид Тишков

1953年、ロシア、ウラル地方のニージニー・セルギー生まれ。小山の麓の湖のほとりに立つ丸太小屋で幼少期を過ごした。両親は教師で、家には本が溢れていた。

モスクワのセーチェノフ医科大学在学中に、画家になることを決意。1979年に大学を卒業した後は、ポーランド、イタリア、ベルギー、ドイツなどの国際風刺画展や視覚詩展で次々に作品を発表した。1991年には、モスクワのアライアンス・ギャラリーで初の個展「ダブロイドだけではない」を開催、1993年には、デューク美術館で個展「生物たち」を開催し、空想上の奇妙な生物を主題とするアーティスト・ブックやイラストを発表した。

挿画家としても旺盛に活躍し、妻で著名な児童文学作家であるマリーナ・マスキヴィナーの童話をはじめ、詩人ダニイル・ハルムス、ミハイル・スホーチンらの作品を空想的な挿絵で彩っている。

2003年に、モスクワ近郊クリャジマの野外芸術祭「アート・クリャジマ」で、光る月のインスタレーションを制作して以来、月のオブジェを携えて世界各国を旅する「僕の月」プロジェクトを展開している。2012年には、初の絵本を刊行し、2014年に邦訳も出版された。

日本とのかかわりも深く、妻モスクヴィナーと共に日本を旅行した際には、鎌倉の大仏や京都の寺院に自作を設置して撮影を行い、帰国後は、モスクヴィナーがテキストを、チシコフが挿画を担当した日本旅行記『枕草子』を出版した（2002年、モスクワ、レトロ社）。「メッセージ展——モスクワのアーティストからあなたへ」（2006年、富山県南砺市、福野文化創造センター）、堂島リバービエンナーレ（2009年）、中房総国際芸術祭 いちはらアート×ミックス（2014年）に参加。

2017年4月8日（土）から5月14日（日）には、いちはらアート×ミックス 2017に参加し、前回のアート×ミックスで制作した「デ・キリコの月」、「ロルカの月」「芭蕉の月」に加え、「種田山頭火の月」「ウィリアム・ブレイクの月」を新しく展示する。

〈参考資料〉

- ・いちはらアート×ミックス 2017 <http://ichihara-artmix.jp/>
- ・レオニート・チシコフ『かぜをひいたおつきさま』鴻野わか菜訳（徳間書店、2014年）
- ・鴻野わか菜「レオニート・チシコフの共生のユートピア——「僕の月」、幻想的生物、未来派の夢」『人文社会科学研究』第28号（千葉大学人文社会科学研究所、2014年）205-217頁。
http://mitizane.ll.chiba-u.jp/metadb/up/AA12170670/18834744_28_15.pdf